




審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1220 号	氏名	やなぎ だ のぶ ひこ 柳 田 信 彦
審査担当者	主査	山下 裕史朗	
	副主査	石竹 達也	
	副主査	恵紙 英昭	
主論文題目： The Effects of Psychoeducation on Long-term Inpatients with Schizophrenia and Schizoaffective Disorder (統合失調症および統合失調感情障害の長期入院患者に対する心理教育の効果)			

審査結果の要旨 (意見)

わが国の統合失調症患者はじめ精神疾患患者の入院期間が欧米に比べて極めて長いことは医療経済的にも大きな問題である。入院直後の患者や外来・デイケア通院中の患者への心理教育 (PE) の実践報告はあるが、1 年以上入院中の統合失調症患者への PE 実践報告はほとんどない。本研究は長期入院患者に 6 回の PE を行い、服薬量、薬に対する構えの調査票 (DAI-10)、および疾病薬物知識度調査 (KIDI) の改善を認め、長期入院患者においても PE の一定の効果をはじめて示したものである。長期入院患者への PE のあり方を見直す価値ある論文と考える。

論文要旨

本研究は、精神科病院長期入院患者 (長期入院患者) に対し、心理教育 (PE) を実施し、病気に対する知識や服薬態度の変化から、長期入院患者の服薬アドヒアランス改善の介入意義を検討することを目的とした。

対象は精神科病院に 1 年以上入院している患者で、口頭でのコミュニケーションが可能であり、ICD-10 により F2 (統合失調症、統合失調型および妄想性障害) と診断されたものとした。

調査項目と評価は、患者概要、機能の全体的評定 (GAF)、服薬量、薬に対する構えの調査票 (DAI-10)、および疾病薬物知識度調査 (KIDI) である。服薬量は Chlorpromazine 換算値 (CP) を用いた。GAF、CP、DAI-10、及び KIDI は、PE の開始 1 週間以内、および PE 終了後 1 週間以内に行った。介入前後の比較には Wilcoxon 符号順位検定と McNemar 検定を使用した。結果は KIDI と DAI-10 のスコアが有意に増加した。さらに超長期入院患者の KIDI のスコアが有意に増加した。

本研究の結果は、入院直後や退院後、または外来通院やデイケアなどの地域生活を行っている患者を対象としている先行研究と同様に、PE が長期入院患者でも一定の効果があることを示したものと考えた。